

令和 5 年 10 月 26 日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K01511

研究課題名(和文) 地域生活で遂行される活動の難易度とその実践応用に関する研究

研究課題名(英文) The subjective difficulty of activities in daily community life and its clinical application

研究代表者

斉藤 さわ子 (Saito, Sawako)

茨城県立医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70315688

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本人大学生、作業療法士、就労支援施設利用者の主観的生活活動難易度は、実際の活動の遂行観察評価で明らかにされている客観的生活活動難易度との相関は高かった($r>0.8$, $p<0.01$)。また、日本人大学生、作業療法士、就労支援施設利用者間での相関も高かった($r>0.8$, $p<0.01$)。このことから、日本人の主観的生活活動難易度は、概ね客観的生活活動難易度と一致しており、日本人の活動難易度感に基づいて支援を行うことで大きな問題は生じないと考えられた。一方で、人によって大きく難易度の捉え方が大きく異なる活動もあり、それらの活動に関しては、再獲得支援をする際に注意が必要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本人の主観的日常生活活動難易度を明らかにした。観察評価で明らかにされていた客観的日常生活活動難易度と概ね一致していることがわかった。しかし、若年成人においては「手を洗って拭く」「草取りをする」、作業療法士においては「上下着の着替え」、就労支援施設利用者においては、「小さい園芸用植物の植え替え」と「ソースのかかったパスタとサラダと飲み物を用意する」は、人によって大きく難易度が異なる活動であることも示された。客観的日常生活活動難易度と大きく難易度が異なる活動もあり、リハビリテーション職は、生活活動の再獲得支援の際に、注意して治療・介入に用いる必要がある活動が明らかにされた。

研究成果の概要(英文)：The subjective difficulty of activities in daily community life of Japanese university students, occupational therapists, and users of employment support facilities had high correlations with the objective difficulty of activities in daily community life which calibrated based on observation of actual performance ($r>0.8$). There were also high correlations in the subjective difficulty of activities in daily life among Japanese university students, occupational therapists, and users of employment support facilities ($r>0.8$). Therefore, it was indicated that therapists providing intervention to enable clients activities performing in daily life based on their subjective challenge of activities in daily life would not cause any major problems. The results also showed that there were some activities which differed greatly in subjective difficulty depend on person. These activities would be required special considerations when supporting clients to reacquire them.

研究分野：作業療法

キーワード：作業療法 支援施設 リハビリテーション 大学生 地域生活 日常生活活動 手段的日常生活活動 主観的難易度 就労

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

費用対効果の高い地域生活支援を行うためには、実際に家庭や施設で行われる様々な活動が短期間にできるようにする技術は不可欠である。短期間に確実に活動がより多く出来るための支援には、活動ペースでの慎重な段階づけは欠かせないが、適切な段階づけを行うには、活動の難易度が必要であるにも関わらず指標となるものはない。

10万人以上のデータに基づき、世界的に標準化されている観察型のADL/IADL評価法であるAssessment of Motor and Process Skills (以下AMPS)は、120以上の課題リスト5)を持ち、その課題全ての課題難易度を明示している。この難易度の知識を持っていれば、対象者の障害の質に合わせ、医療・福祉従事者は客観的に適切な活動の治療的利用や活動の可能化への段階づけができることになる。しかし、活動をするかしないかは、観察に基づく客観的な難易度よりも、本人が感じる活動の難易度の大きく左右される。また、活動の遂行プロセスや期待される到達程度は国や文化によって異なるため、活動の難易度のイメージは国によって大きく異なる可能性がある。しかし、主観的な活動難易度はこれまでに明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究では、地域で生活するのに行われている様々な活動の日本人が考えている活動難易度を明らかにし、活動を用いるリハビリテーション実践への示唆を得ることを目的とした。なお、活動の範囲は、日常生活活動(以下、ADL)、手段的日常生活活動(以下 IADL)と楽しみで行われる自宅内や自宅周辺で行われる余暇活動とする。

具体的には、(1)健康な若年成人、(2)作業療法士、(3)就労支援施設利用者の地域生活で遂行される日常生活活動(以下、ADL)、手段的日常生活活動(以下 IADL)と楽しみで行われる自宅内や自宅周辺で行われる余暇活動の主観的難易度を明らかにし、(4)比較検討することで実践の示唆を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 健康な若年成人の地域生活で遂行される主観的活動難易度(研究1)

【対象者】2017年~2023年に大学1~3年生だった、静岡県、東京都、埼玉県、茨城県、宮城県にある大学に所属する作業療法学生277名(女201名、男53名、その他23名)で、年齢はM19.23±0.93であった。

【手段と手順】活動はAssessment of Motor and Process Skills(以下AMPS)の125課題から抽出し本研究用にアンケートを作成し用いた。AMPS講習会受講者でAMPSを臨床や教育で利用している大学の教員に依頼し了解を得た後、授業前後にアンケートへの協力を学生に依頼を行い、時間の許す限りアンケートに答えてもらうように依頼した。

【データ分析】主観的日常生活活動難易度は、Rasch測定モデルを用い算出した。アンケートで遂行経験なしと答えた活動データは除き、遂行経験のある活動データのみを用いた。主観的日常生活活動難易度を算出する際には、20名以上が遂行経験があった活動データのみを用い、算出された活動難易度の信頼性が十分であるかどうかは、項目(活動)のReliabilityは0.9以上で、Separationは3.0以上、人(大学生)はReliabilityは0.8以上、Separationは2.0以上を基準値とした。また、活動の適合度の判断には、Infit及びOutfitのいずれかがMNSQが2.0以上の活動は、不適合かつ難易度を算出するのに不要なノイズ変数として取り除いて難易度を作成することとした(Linacre, 2023)。なお、分析には、WINSTEPS version 5.5.0.0を用いた。

表1 アンケートで用いた活動名リスト(79課題)

活動番号	活動名	活動番号	活動名	活動番号	活動名
A01	3箱裏から飲み物を取り出し用する(1人分)	I08	カップ種をつくる(1人分)	N01	小さい個包装の雑物の箱入替え
A02	インスタントの飲み物をつくる(1人分)	I09	揚げインスタント麺(ラーメン等)をつくる	N02	雑物に油をやり、茹た茶を取り除く
A03	アイボット(高湯)で入れたい茶葉を1箱(コーヒーメーカーで入れたコーヒー(1または2人分))を用する	I11	炒飯を用する(1または2人分)	P01	ナイフ、スプーン、フォークで食事をとる
B01	トーストとドライアップコーヒータン(インスタントコーヒー、ココア、あるいはアイス(パックで売られている))を用する(1人分)	I12	野菜スープを用する(1~4人分):野菜は炒める	P02	歯磨きをする
B02	トーストとドライアップコーヒータン(インスタントコーヒー)をつくり、テーブルに設置する(1人分)	I13	野菜スープを用する(1~4人分)	P03	歯磨きを行う
C01	お笑いシリアル(コーンフレーク等)と飲み物を用する(1人分)	I15	バスタのためのトランスをつくる(2人分)	P04	靴と靴下を履く(ひもをやりかき履く必要がない)
D01	料理用(スクランブルエッグ、目玉焼き等)のトーストをつくり、飲み物を出す(1人分)	I16	調理入りソノのつかったバスタと飲み物を用する(2人分)	P05	靴と靴下を履く(ひもを履く必要はない)は履く
D02	料理用(スクランブルエッグ、目玉焼き等)のトーストをつくり、ドライアップコーヒータン(インスタントコーヒー)で飲む(1人分)、テーブルに設置する	I21	みそ汁をつくる	P06	上着の着替え
D03	料理用(スクランブルエッグ、目玉焼き等)のトーストをつくり、ドライアップコーヒータン(インスタントコーヒー)で飲む(1人分)、テーブルに設置する	I22	ご飯とみそ汁をおかずを用する	P07	上着の着替え:履はけ付けられている
D04	食を入れたタムシがある(スクランブルエッグ(119)とトーストをつくり、飲み物(アイス(パック)に設置、テーブルに設置する(1人分))	J01	床を掃く	P08	上半身の着替と全身の着替え
D06	手で卵をエッグカップで出す	J02	掃除機を手で洗う	P09	履で食事を食べる
E01	アレンジトーストを作る(2人分)	J03	掃除機をかける(家具は動かさない)	P10	シャワーを浴びる
E02	パンケーキ(薄いのトウキー)と飲み物を用する(1~3人分)	J04	掃除機をかける 軽めの家具を動かす	P11	上下着の着替え(履はけ用されている)
E03	パンケーキ(厚いのトウキー)と飲み物を用する(1~3人分)	J06	物の置く(例:1階と2階)2部屋に掃除機をかける	P13	おやつを食べ飲み物を飲む
F03	ツナ(チキン、カニでもよい)サラダサンドイッチをつくる(1人分)	J07	バスルームの掃除	P14	履をブラッシングする、とく
F07	スイーツデザートまたはアイスされているハムのサンドイッチをつくる(1人分)	J08	お風呂を洗う	P15	履を洗って乾かす(干く)
F09	アイスサンドイッチ (1人分)	J09	洗濯機を手で洗う、洗濯機、片付ける	P16	電気かみそりで顔のひげを剃る
G01	食を入れたタムシがある(アイス、ビスケット、ビスケットをテーブルに出す(2~4人分))	K05	壁際にあるベッドのシーツ交換をする	P17	手を洗って乾く
G02	食を入れたタムシがある(アイス、ビスケット、ビスケットを壁(トビ)に出す(2~4人分))	K06	シーツと掛け布団カバーの交換	Q01	履を履く
G03	ケーキ、マフィン、あるいはブラウニーをつくる	K08	布団を敷く	Q02	引いた履、または足の履をかき集める
H02	フレッシュフルーツサラダをつくる	L01	洗濯物を洗う	Q03	髪を切る
H03	フレッシュフルーツサラダを器の器に盛る	L02	手で洗濯物を洗う	Q04	車内に掃除機をかける
H04	タムシの器に(2~3人分)のヤクをつくり、フレッシュを混ぜる	L03	洗濯機に洗濯物を入れ、洗濯を始める	R01	履を洗う
H05	カットグラスを用した、ドライフレッシュを混ぜ合わせたグラスサラダをタムシで出す	L04	シャツのアイロン掛け:アイロン台を用する	S01	履に履きかき(ドライフードと水)
I05	野菜の下ごしらえ	L05	シャツのアイロン掛け:アイロン台は用済み		
I06	ソノのつかったバスタと飲み物を用する(2人分)	L06	2階の上層(シャワー、バスルーム)にアイロンをかける		
I07	調理入りソノのつかったバスタ、サラダと飲み物を用する(2人分)	L07	洗った靴に履きかきを集めるために干す		

(2) 作業療法士の地域生活で遂行される主観的活動難易度（研究2）

【対象者】2018年～2020年に開催された日常生活活動及び手段的日常生活活動の評価技術を高めるAMPS講習会（合計6回）に参加した作業療法士128名（男性74名，女性54名）。経験年数は $M6.09 \pm SD4.95$ 年，年齢 $29.88 \pm SD6.87$ 歳であった。

【手段と手順】本研究用に作成したアンケートを用いた。手順はAMPS講習会を開催するCIOTS Japanに講習会前にアンケート調査を行う承諾を得て，事前に講習会の講師にアンケートの内容を説明し協力を依頼した。講習会当日，講習会開始前の時間にアンケートを配布し，研究者自らが研究説明を行った。研究協力を同意する参加者には，初日の終了時までアンケートボックスに投函する様に依頼した。

【データ分析】研究1と同じ。

(3) 就労支援施設利用者の地域生活で遂行される主観的活動難易度（研究3）

【対象者】2020年～2022年に就労支援施設（兵庫県2施設と茨城県2施設）の利用者44名（男性19名，女性22名，その他1名）で，年齢は $M41.93 \pm 13.19$ であった。精神障害を持つ利用者が多く28名，次いで発達障害9名，身体障害3名，その他4名であった。

【手段と手順】本研究用のアンケートを作成した。就労支援施設に依頼し，施設から研究協力の承諾を得たら，施設職員に研究目的と手順を説明した。施設内に研究協力のポスターを貼ってもらい，施設職員から研究協力の興味のある利用者へ声をかけてもらい，興味を持った利用者へ施設職員から研究協力の内容の説明をもらい，アンケートを配布し，アンケートボックスに投函する様に依頼した。

【データ分析】研究1と同じ。

(4) 健康な若年成人，作業療法士，就労支援施設利用者の主観的活動難易度および客観的活動難易度との違い

【対象者，手順と手段】研究1～3と同じ。

【データ分析】大学生は研究1で算出された77活動の主観的活動難易度，作業療法士は研究2で算出された41活動の主観的活動難易度，就労支援施設利用者は研究3で算出された65活動の主観的活動難易度で用いられている共通の活動を抽出した。抽出された共通の活動は29活動で，これらの活動において，大学生，作業療法士，就労支援施設利用者（以下，就労利用者）の主観的活動難易度，および客観的活動難易度としてAMPSのMotor and Process task challenge calibration values（以下，AMPS運動およびAMPSプロセス課題難易度）の各難易度値の関係を，Pearson相関係数で分析した。なお，分析にはSPSS version28.0.1.0を用いた。各対象者の活動難易度と，AMPS運動およびAMPSプロセス課題難易度を，ランクに分け比較し，2ランク離れているものを難易度に大きな差のあるものとした。

4. 研究成果

(1) 健康な若年成人の地域生活で遂行される主観的活動難易度（研究1）

対象者の20人以上が経験のあると答えた活動は77課題であった。対象者のReliability=0.90, Separation=3.01であった。活動のReliability=0.98, Separation=6.95であった。対象者も活動もReliabilityおよびSeparationともに基準値以上であった。主観的日常生活活動難易度の適合度は，MNSQはInfitおよびOutfitともに許容範囲内であった。算出された主観的活動難易度で，最も易しいとされた活動は，「手を洗って拭く（P17）」であり，もっとも難しいのは，「ケーキ，マフィンあるいはブラウニーをつくる（G03）」であった。

(2) 作業療法士の地域生活で遂行される主観的活動難易度（研究2）

対象者の20人以上が経験のあると答えた活動は42活動であった。算出された主観的日常生活活動難易度における作業療法士のReliabilityは0.84, Separationは2.30であり，活動はReliabilityは0.98, Separationは6.53であった。作業療法士も活動もReliabilityおよびSeparationともに基準値以上であった。主観的日常生活活動難易度の適合度は（表2），活動のInfitのMNSQは許容範囲内(<2.0)であった。OutfitのMNSQは「上下着の着替え（P11）」のみが許容範囲を超えていた。「上下着の着替え（P11）」のデータを抜き，41活動にて主観的日常生活活動難易度を算出した。この41活動での主観的日常生活活動難易度における作業療法士のReliabilityは0.85, Separationは2.35であり，活動のReliabilityは0.98, Separationは6.77であった。作業療法士も活動もReliabilityおよびSeparationともに基準値以上であった。主観的日常生活活動難易度の適合度は，全ての活動のInfitおよびOutfitのMNSQは許容範囲内であった。算出された主観的活動難易度で，もっとも容易な課題は「手を洗って拭く（P17）」であり，最も困難な課題は「買い物をする（R01）」であった。

(3) 就労支援施設利用者の地域生活で遂行される主観的活動難易度（研究3）

対象者全員が，79課題に対して回答を行ったが，20人以上が経験のあると答えた活動は66活動であった。66活動のReliabilityは0.88, Separationは2.71であった。活動はReliabilityおよびSeparationともに基準値を下回った。適合度が悪かったため，Infitと

Outfit の両方で MNSQ の適合許容範囲を超えた活動「小さい園芸用植物の植え替え(N1)」のデータを除き、65 活動にて主観的日常生活活動難易度を再算出した。この 65 活動での主観的日常生活活動難易度における利用者の Reliability は 0.94, Separation は 3.86 であり、活動の Reliability は 0.89, Separation は 2.78 であった。主観的日常生活活動難易度の適合度は、全ての活動の Infit の MNSQ は許容範囲内であったが、Outfit の MNSQ は「ソースのかかったパスタとサラダと飲み物を用意する (I06)」および「植物の水をやり、枯れた葉を取り除く (N2)」が許容範囲を超えていた。算出された主観的活動難易度で、もっとも容易な課題は「顔を洗って乾かす (P15)」であり、最も困難な課題は「買い物をする (I06)」であった。

(4) 健康な若年成人, 作業療法士, 就労支援施設利用者の主観的活動難易度および客観的活動難易度との違い

各対象者間の主観的活動難易度の相関は、有意に高かった(表 2)。各活動における主観的活動難易度値と AMPS 運動課題難易度値で大きな差があったのは、若年成人では 2 活動「箸で食事をとる (P09)」「整容を行う(P03)」で、作業療法士では 1 活動「箸で食事をとる (P09)」, 学生はいずれの活動も客観的活動難易度よりも難しい活動と捉えていることがわかった。就労施設利用者では 2 活動「お湯でつくるインスタント麺 (I08)」「味噌汁 (I21)」で大きな差があり、いずれの活動も客観的活動難易度値である AMPS 運動課題難易度値よりも簡単に捉えていることがわかった。

表 2 29 活動における、若年成人, 作業療法士, 就労施設利用者の主観的活動難易度と客観的活動難易度 (AMPS 運動およびプロセス課題難易度) の相関

		若年成人	作業療法士	就労利用者	AMPS 運動	AMPS プロセス
作業療法士	Pearson の相関係数	.933**	1	.881**	.872**	.824**
	有意確率 (両側)	<.001		<.001	<.001	<.001
	度数	29	29	29	29	29
大学生	Pearson の相関係数	1	.933**	.889**	.817**	.808**
	有意確率 (両側)		<.001	<.001	<.001	<.001
	度数	29	29	29	29	29
施設利用者	Pearson の相関係数	.889**	.881**	1	.803**	.811**
	有意確率 (両側)	<.001	<.001		<.001	<.001
	度数	29	29	29	29	29
AMPS運動	Pearson の相関係数	.817**	.872**	.803**	1	.768**
	有意確率 (両側)	<.001	<.001	<.001		<.001
	度数	29	29	29	29	29
AMPSプロセス	Pearson の相関係数	.808**	.824**	.811**	.768**	1
	有意確率 (両側)	<.001	<.001	<.001	<.001	
	度数	29	29	29	29	29

表 3 客観的活動難易度 (AMPS 運動課題難易度) と各対象者の主観的活動難易度との違い

活動名	AMPSM (AM)		OT		若年成人		作業療法士		施設利用者		
	logit値	ランク	logit値	ランク	logit値	ランク	logit値	ランク	logit値	ランク	
P14	1.1	1	4.71	2	-1	3.46	2	-1	1.07	2	-1
P17	1.1	1	5.73	1	0	4.21	1	0	1.4	1	0
P13	1.1	1	2.43	4	-3	2.67	2	-1	1.18	2	-1
P02	1.1	1	3.63	3	-2	2.57	3	-2	1.35	1	0
P15	1.1	1	3.71	3	-2	2.85	3	-2	1.63	1	0
P09	1.1	1	1.93	5	-4	1.04	6	-5	1.13	2	-1
P06	0.4	4	2.49	4	0	1.67	5	-1	1.03	3	1
P16	0.4	4	2.06	4	0	0.51	7	-3	1.09	2	2
P04	0.3	5	1.32	5	0	1.84	5	0	1.05	3	2
A01	0.3	5	1.24	5	0	2.75	3	2	1.34	2	3
A02	0.3	5	1.17	5	0	1.66	5	0	1.03	3	2
P03	0.3	5	-0.87	8	-3	-0.47	9	-4	0	6	-1
P05	0.2	6	0.64	6	0	0.64	7	-1	0.29	5	1
L03	0.2	6	0.13	6	0	0.85	6	0	0.7	3	3
K08	0.1	7	0.58	7	0	2.04	7	0	1.3	5	2
J01	0	7	-0.81	7	0	0.22	7	0	0.22	7	0
I08	0	7	-0.21	6	1	0.67	4	3	-0.09	2	5
I09	0	7	-0.17	7	0	0.58	7	0	0.38	5	2
I05	-0.1	8	-0.3	7	1	-0.37	8	0	-0.25	7	1
H04	-0.1	8	-0.93	8	0	0.3	7	1	-0.69	9	-1
E01	-0.1	8	-3.58	10	-2	-1.68	10	-2	-1.01	10	-2
Q02	-0.2	9	-0.83	7	2	0.06	8	1	-0.78	9	0
J03	-0.2	9	-1.63	7	2	-0.02	7	2	0.07	8	1
K05	-0.2	9	-2.91	9	0	-0.96	10	-1	-0.84	9	0
I22	-0.2	9	-0.01	8	1	0.12	8	1	0.27	6	3
L06	-0.2	9	-3.67	10	-1	-1.54	9	0	-1.19	10	-1
I21	-0.3	9	-0.29	7	2	0.26	7	2	-0.38	5	4
I06	-0.3	9	-2.12	10	-1	-1.13	10	-1	-0.83	10	-1
J06	-0.5	10	-2.47	9	1	-1.59	10	0	-0.87	9	1
P14	0.9	1	4.71	2	-1	3.46	2	-1	1.07	2	-1
P17	0.8	2	5.73	1	1	4.21	1	1	1.4	1	1
P13	0.8	2	2.43	4	-2	2.67	2	0	1.18	2	0
P02	0.8	2	1.32	3	-1	1.84	3	-1	1.05	1	1
P06	0.7	2	2.49	4	-2	1.67	5	-3	1.03	3	-1
P04	0.7	2	1.24	5	-3	2.75	3	-2	1.34	3	-1
A01	0.7	2	0.64	5	-3	0.64	3	-1	0.29	2	0
P05	0.6	2	3.63	6	-4	2.57	7	-5	1.35	5	-3
K08	0.6	2	-0.81	7	-5	0.22	7	-5	0.22	5	-3
P15	0.5	3	3.71	3	0	2.85	3	0	1.63	1	2
P09	0.5	3	1.93	5	-2	1.04	6	-3	1.13	2	1
P16	0.5	3	2.06	4	-1	0.51	7	-4	1.09	2	1
A02	0.4	4	1.17	5	-1	1.66	5	-1	1.03	3	1
L03	0.4	4	0.13	6	-2	0.85	6	-2	0.7	3	1
P03	0.2	5	-0.87	8	-3	-0.47	9	-4	0	6	-1
J01	0.2	5	-0.21	7	-2	0.67	7	-2	-0.09	7	-2
I08	0.1	6	0.58	6	0	2.04	4	2	1.3	2	4
I09	0	6	-0.17	7	-1	0.58	7	-1	0.38	5	1
Q02	0	6	-0.83	7	-1	0.06	8	-2	-0.78	9	-3
J03	0	6	-0.29	7	-1	0.26	7	-1	-0.38	8	-2
K05	0	6	-2.12	9	-3	-1.13	10	-4	-0.83	9	-3
I05	-0.1	7	-0.3	7	0	-0.37	8	-1	-0.25	7	0
H04	-0.2	8	-1.63	8	0	-0.02	7	1	0.07	9	-1
I22	-0.2	8	-2.91	8	0	-0.96	8	0	-0.84	6	2
L06	-0.3	8	-0.93	10	-2	0.3	9	-1	-0.69	10	-2
J06	-0.3	8	-2.47	9	-1	-1.59	10	-2	-0.87	9	-1
E01	-0.4	9	-3.58	10	-1	-1.68	10	-1	-1.01	10	-1
I21	-0.4	9	-0.01	7	2	0.12	7	2	0.27	5	4
I06	-0.6	10	-2.47	9	1	-1.54	10	0	-1.19	10	0

AMPS プロセス課題難易度値と大きな差があったのは、作業療法士では2活動「靴と靴下を履く (P05)」「日本式の床の上の寝具類を広げる：布団を敷く (K08)」,大学生では5活動「靴と靴下を履く (P05)」「日本式の床の上の寝具類を広げる：布団を敷く (K08)」「電気カミソリで顔の髭を剃る (P16)」「整容を行う (P03)」「壁際にあるベッドのシーツ交換する (K05)」であり、いずれの課題も客観的活動難易度である AMPS プロセス課題難易度よりも難しい課題と捉えていた。就労施設利用者では2活動「鍋でインスタント麺をつくる (I08)」「みそ汁をつくる (I21)」に大きな差があり、いずれの活動も客観的活動難易度よりも簡単に捉えていた。

(5) 総括

主観的活動難易度は、若年成人、作業療法士、就労支援施設利用者間で相関が高く、異なる集団であっても地域生活で行われる活動へ似通った主観的難易度感をもっている可能性が示された。また、この3つの集団の主観的活動難易度感は、客観的活動難易度(実際の活動の遂行観察評価により明らかにされている AMPS 運動およびプロセス課題難易度)との相関も高く、これらのことから概ね、主観的な活動難易度順に段階付けや支援をしても大きな問題は生じないと考えられた。

一方で、特定の活動については、注意して支援をする必要があることも明らかになった。若年成人においては「手を洗って拭く (P17)」「草取りをする (Q03)」,作業療法士においては「上下着の着替え (P11)」,就労支援施設利用者においては、「小さい園芸用植物の植え替え (N1)」と「ソースのかかったパスタとサラダと飲み物を用意する (I6)」は、人によって大きく難易度が異なる活動である可能性があることも示された。また、作業療法士では3活動「靴と靴下を履く (P05)」「日本式の床の上の寝具類を広げる：布団を敷く (K08)」「箸で食事をとる (P09)」,若年成人では6活動「靴と靴下を履く (P05)」「日本式の床の上の寝具類を広げる：布団を敷く (K08)」「電気カミソリで顔の髭を剃る (P16)」「整容を行う (P03)」「壁際にあるベッドのシーツ交換する (K05)」「箸で食事をとる (P09)」については、AMPS 運動あるいはプロセス課題難易度よりも難しく捉えていた。就労支援施設利用者では2活動「鍋でインスタント麺をつくる (I08)」「みそ汁をつくる (I21)」について、AMPS 運動あるいはプロセス課題難易度よりも、活動の難易度が簡単だと捉えていた。このことは、特定の活動において、各対象集団によって捉える難易度が異なることを示し、客観的活動難易度と異なる活動があることを踏まえた、指導や介入が必要であることを示唆する。難しくあるいは簡単に捉えていた理由が、生活経験や職場などの文化的な影響によるものであるのか、本研究のアンケートの方法や説明に問題があるのかなど、その理由について活動ごとに今後、明らかに必要がある。

<引用文献>

Anne G. Fisher, Kristin Bray James (2012). Assessment of motor and process skills: volume1- Development, standardization, and administration manual 7th edition, revised. Three Star Press. Fort Collins, CO.

Anne G. Fisher, Kristin Bray James (2014). Assessment of motor and process skills: volume2- User manual 8th edition, revised. Three Star Press. Fort Collins, CO.

Jon M. Linacre (2023). A user's guide to WINSTEPS Rasch-model computer program. Program manual 5.5.1. winsteps.com

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤さわ子, 真田育依
2. 発表標題 作業療法士の日常生活課題難易度の認識と年齢による違い
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会（福岡）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤さわ子, 真田育依, 金野達也
2. 発表標題 日本人作業療法士の主観的な日常作業難易度
3. 学会等名 第23回作業科学セミナー（茨城）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------